

事務事業評価シート（二次評価）の見方（1/2）

基本情報

- 事務事業名（中事業）**
評価の対象としている事務事業の名称
- 予算事業名（大事業）**
当該事務事業が属する予算事業の名称
- 予算科目**
予算の款、項、目と大事業、中事業のコード
- 会計区分**
一般会計または特別会計の名称
- 事業期間**
当該事務事業を開始した年度及び終了する（した）年度
- 新規・継続区分**
令和5年度から開始した事業は「新規」、その他は「継続」
- 事業区分**
当該事務事業に該当する以下の事業区分の名称
① ソフト事業、② 施設の建設、③ 施設の整備、
④ 経常的事務事業、⑤ 施設の管理運営、⑥ 内部管理事務
- 費用区分**
当該事務事業に投じられた財源の内訳
- 部名、課名、課長名**
当該事務事業を所管する所属及び所属長

※「重点事業」は未使用

1 位置づけ等（前半）

- 総合計画**
第四次川越市総合計画（後期計画）上での位置づけ
- 個別計画名**
上記以外の個別計画で位置づけられている場合、その名称
- 根拠法令条項、条例、要綱名等**
事業実施の根拠となる法令、条例、要綱等の名称
- 補助金、交付金要綱名等**
補助金、交付金等の根拠となる要綱等の名称

令和6年度 事務事業評価シート（二次評価）

※令和5年度に実施した事業を評価しています

□ 完了事業 □ ゼロ予算事業 ■ 評価事業 □ 実行事業

事務事業名 (中事業)	美術展覧会	予算事業名 (大事業)	地球文化支援
予算科目	02-01-15-03-04-00	会計区分	一般会計
事業期間	昭和27年度～	新規・継続区分	継続
事業区分	ソフト事業	費用区分	市費、その他
部名	文化スポーツ部	重点事業	—
課名	文化芸術振興課	課長名	奥富 和也

1 位置づけ等

総合計画	分野別計画	教育・文化・スポーツ
総合計画	施策	1.4 文化芸術活動の充実
総合計画	取組施策	0.1 文化芸術の振興
個別計画名	第三次川越市文化芸術振興計画	
根拠法令条項、条例、要綱名等	川越市美術展運営委員会運営要綱	法令による実施義務
補助金、交付金要綱名等	なし	上乗せ横出し
関連事業	なし	無

2 事業の目的と内容

実施主体	市（一部委託）	対象（誰・何を対象に）	市民
事業目的 (対象をどのようにしたいのか)	川越市の芸術発展を図るため、芸術に関する発表・交流を行うとともに、地域文化の振興に寄与することを目的に広く参加・創造の意欲を喚起する。		
事業の内容 (事業目的を達成するために、具体的にどのようなことを行っているのか、また、行ってきたのか)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年6月頃に作品募集の周知を始める。 出品点数：一部門につき一人1点 出品資格：川越市又は川越市周辺に在住、在勤又は在学する15歳以上の方（中学生は除く） 出品手数料：一般応募者2,000円 学生1,000円 搬入は例年9月下旬に、展示は10月上旬から中旬にかけて行う。 審査の結果、成績優秀方には賞を授与し、授賞式を開催している。 入選・入賞の結果は市ホームページや、会場である川越市立美術館内で掲示する。 		
事業実施の成果 (効果・予測)	<ul style="list-style-type: none"> 市民の文化芸術活動の成果を発表する機会の充実 参加者や地域社会の交流促進 		
事業実施にあたっての課題	出品者が固定化する傾向があるため、特に若い世代を中心に新規出品者獲得のための周知を図る必要がある。		

3 指標

名称	単位	人				出典
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
成果指標	指標値	予定	680	680	680	目標年度
	実績	—	519	489	—	目標値
	単位当たり費用	—	18,102	19,186	—	680
活動指標	指標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標年度
	予定	—	—	—	—	—
	実績	—	—	—	—	目標値
単位当たり費用	—	—	—	—	—	

4 他市との比較等

(1) 比較参考値（他市での類似事業の例など）	埼玉県（埼玉県美術館賞）での実施例に倣い、県内各市で開催されているほか、県外の中核市等においても定例事業として定着している市もある。
(2) これまでの見直しや改善等の経緯	<ul style="list-style-type: none"> 学生の出品手数料引き下げ 学生奨励賞の創設 目錄冊子販売料金値上げ、委託業務の見直し

1 位置づけ等（後半）

- 法令による実施義務、上乗せ横出し**
法令による実施義務、上乗せ横出し※の有無
- 関係事業**
当該事務事業に関連する事務事業の名称

※法令等を根拠とする行政サービスについて、地方自治体が独自に追加のサービスを行う（上乗せ）または対象範囲を広げるもの（横出し）

2 事業の目的と内容

- 実施主体**
当該事務事業の実施主体
- 対象（誰・何を対象に）、事業目的、事業の内容**
当該事務事業が、どのような目的で、誰（あるいは何）を対象として、具体的にどのような内容で実施されるか
- 事務事業の成果**
当該事務事業を実施した結果もたらされる成果
- 事業実施にあたっての課題**
事業実施にあたっての課題

3 指標

- 成果指標**
「事業目的」欄に記入した目的に対する達成度を把握するための指標で、各年度の予定及び実績等を記載
- 活動指標**
どのような行政サービスをどれだけ提供したかを示す指標で、各年度の予定及び実績等を記載

※令和4年度から入力を再開したため令和3年度は未入力となっています。

4 他市との比較等

- 比較参考値**
他自治体での類似事業の状況等
- これまでの見直しや改善等の経緯**
直近に見直した内容及び改善等の経緯

事務事業評価シート（二次評価）の見方（2 / 2）

5 実施にかかるコスト

- 一会計期間における行政サービスの提供に要した人件費及び事業費とそれを賄うために要した財源の内訳
- 令和5年度までは決算を基にしており、令和6年度は原則として当初予算額

※令和4年度から入力を再開したため令和3年度は未入力となっています。
 ※事業費の節単位で丸め処理をしているため、当該事務事業の決算値と一致しないことがあります。

6 評価

- 必要性、有効性、達成度、効率性**
 評価項目ごとに以下の視点で評価を行った結果（A～D）及び事業所管課によるコメント等
 - 必要性**：市が実施する必要がある事業か
 現在の社会・経済情勢や市民ニーズなど、時代の潮流に対して事業の実施意義が薄れていないか
 - 有効性**：事務事業の上位目的である総合計画の施策の目的達成に貢献しているか
 - 達成度**：事業の成果や実績の目標に対する達成状況
 - 効率性**：民間委託や指定管理者制度の導入は可能か
 成果を下げずにコスト削減が可能か
 受益者負担（補助金）割合は妥当か
- 総合評価**
 上記の4つの評価の視点を総合して評価した結果（A～D）及び事業所管課によるコメント等

総合評価の一覧

総合評価	説明
A	計画どおり事業を進めることが適当又は一部見直しの検討
B	事業の進め方の改善の検討
C	事業の必要性・規模・内容の定期的な見直し
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討

5 実施にかかるコスト

(単位:千円)

	令和3年度(決算額)	令和4年度(決算額)	令和5年度(決算額)	令和6年度(見込額)
国庫支出金	0	0	0	0
県支出金	0	70	70	0
財源	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0
分割金・負担金	0	0	0	0
内訳	0	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0	0
基金	0	0	0	0
その他	0	1,045	993	1,281
一般財源	0	8,280	8,319	8,294
財源合計	0	9,395	9,382	9,575
人件費	0	7,200	7,200	7,200
正規職員(1年間の従事人数)	0	0.9	0.9	0.9
会計年度職員(1年間の従事人数)	0	0	0	0
事業費	0	2,195	2,182	2,375
報酬費	0	526	470	527
費用費	0	404	474	475
役務費	0	77	73	89
委託料	0	1,188	1,161	1,276
使用料及び賃借料	0	0	4	0
その他	0	0	0	5
総事業費合計 (A) + (B)	0	9,395	9,382	9,575

6 評価

項目	評価結果	主な評価の視点	主な評価コメント及び課題等
必要性	C	法令等によりサービスが義務付けられている事業(○の場合A評価) 市や他市と比較しサービス水準の見直しの余地がなく、他市で廃止・見直しが進んでいない	川越美術協会の協力を得ながら開催している、市民公募の展覧会であることから、川越市民が文化芸術に身近に触れる機会を提供できる事業である。また、大学生までを対象とした出品料の割引、「学生奨励賞」を設けるなど、若い世代が文化芸術の分野により関心を持ち、参加・創造できるよう取り組んでいる。若い世代への文化芸術の振興も含めて開催する必要がある事業である。
有効性	B	国・県で同種のサービスが行われていない、上乗せ・増出しの事業ではない 総合計画の取組施策への記載があるか(○の場合A評価)	総合計画の指標達成に関係はないが、施策目的達成に必要な事業である。
達成度	B	施策の指標達成に関係があるか(○の場合A又はB評価) 施策目的達成のために必要な事業か	
達成度	B	設定した活動・成果指標の目標(予定)を達成しているか	前年度と比較すると達成度は下がっているため、出品者数の増加に向けた対応を検討する必要がある。
効率性	C	適切に直営で行っている。一部又は全部委託し、適切に委託を行っている コスト削減の余地はないか(経費・人員・手法) 受益と負担(補助)の適正化が図られているか	広く市民の発表機会の充実を図るため、市が主体となって実施すべき事業である。事業費の大半を委託費が占めており、事業費を踏まえながら他市の実施例を鑑みて、委託内容の見直しを行う余地がある。
総合評価	D	本事業は、地域住民の美術に関する発表・交流の場かつ美術鑑賞の機会提供の場として定着し、川越美術協会をはじめとする関係団体と連携・協働してこれまで継続開催されてきた意義ある事業であるが、参加者・役員の高齢化、新規出品者(特に若年層、中年層)等の課題もある。	

7 今後の方向性及び今後の取組み(改善策など)

今後の方向性	改善
令和6年度	引き続き、過去出品者に案内を通知するなどし、出品者数の確保に努める。 また、学生の出品者については、例えば学校宛てに通知する際、別途顧問宛てに通知する等、広報方法を改善していく。
令和7年度	引き続き、過去出品者に案内を通知するなどし、出品者数の確保に努める。 また、学生の出品者については、例えば学校宛てに通知する際、別途顧問宛てに通知する等、広報方法を改善していく。

7 今後の方向性及び今後の取組み

- 上記の評価を踏まえた、当該事業の今後の方向性と令和6年度、令和7年度の取組内容

今後の方向性の一覧

今後の方向性	説明
継続	現状では適切な事業の執行を行っている場合など
改善	目標を達成するために何らかの見直しが必要な場合など
拡充	市民ニーズが増大している場合など
縮小	市民ニーズが減少している場合など
廃止	事業の目的を達した場合など